【別添】

令和6年度 学校自己評価システムシート

日高市立武蔵台小中学校

目指す学校像	地域に愛され、みんなが笑顔で安心して過ごせる学校
重点目標	○義務教育学校ならではの教育課程を確立する ・学力向上 ・異年齢交流活動の促進 ・社会に開かれた教育課程の推進 ○校内研修の充実 ○児童生徒会活動の充実

学 校 自 己 評 価											
年 度 目 標			年度評価 (令和7年2月3日現在)				学校運営協議会での評価		「学校運営協議会での評価」を受けて		
評価項目	具体的方策	評価指標	評価基準	教職員の割合	保護者の割合	目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会での評価 実施日 令和7年2月12日 学校運営協議会の委員からの意見・要望・評価等		
組織運営の充実 小中一貫教育の視点	目指す15歳の具現化 積極的な生徒指導の充実	1	学校は、目指す15歳像「たくましく未来を切り拓き、一歩上を目指すたっ子」の育成に努め、9年間の発達を見据えた教育活動(授業、学校行事、部活動等)を進めている。	A+B	100.0%	95.7%	X	・義務教育学校の特色を生かした教育課程を確立する。本校独自の学校行事の形を完成させる。 ・「対話」「創造」「挑戦」「交流」「表現」をキーワードにして、9年間の発達を見据えた教育活動を全職員で推進する。 ・児童生徒会を中心とした積極的な学校行事の企画・運営をおこなう。 ・9年間を見通した「ふるさと科」の学習を計画的に実施することで、「過去・現在・未来」の視点に立った探究的な活動を充実させる。	昨年度の反省をもとに、意見を出し合い義務教育学校の形ができてきていると感じる。3年目は、更に工夫・改善をしながらよりよい教育活動を展開してほしい。	「次年度の課題と改善策」に係る変更点や追加事項等(※変更点や追加事項等がない場合は空欄)	
		2	学校は、児童生徒一人一人のよさを認め、伸ばし、社会の中で自分らしく生きることができていることを目指して、体験活動や児童生徒会活動に積極的に取り組んでいる。	Aのみ	33.3%	31.9%					・次年度へ継続する課題 ・改善していくための方向性
基礎学力の定着	授業改善 個に応じた指導と補充学習	3	学校は、タブレット端末の活用や話し合い活動などを通して、思考を深める授業づくりに努めている。	A+B	95.8%	93.9%	Y	・学力調査結果を活用し、学力向上につなげる。児童生徒が思考を深める「教えない授業」をおこなう。 ・校内研修を通して、児童生徒の自己効力感を高めるための指導方法の工夫改善をおこなう。 ・ICTの効果的な活用場面・活用方法を探究し、授業改善を進める。 ・学力調査結果の分析を通して、学校の課題、各学年の課題を明確化し、よりよい指導方法を検討していく。保護者へもわかりやすく伝えていく。	基礎学力の低い児童生徒への支援と、学力の高い児童への追加の課題など、個に応じた指導方法の工夫が必要である。	学力の低い児童については、補助発問などの丁寧な声掛けをしていく。また、学力の高い児童については、応用問題を準備するなど、個に応じた指導の工夫をおこなっていく。	
		4	学校は、学力調査の結果を受けて具体的な学力向上策を検討し、指導にあたっている。	Aのみ	33.3%	42.2%					・学力調査の分析をし、学校だよりやホームページ(学びの道具箱コーナー)に掲載し、現状と課題を発信している。 ・非認知能力の向上に向け居心地のよい学習づくりに努めながら授業を展開した。
保護者や地域との連携 コミュニティ・スクールの視点	学校の情報発信 保護者・地域との連携	5	学校は、各種たより・学校ホームページ・メール配信等を通して、学校の情報を積極的に発信している。	A+B	100.0%	93.9%	X	・保護者・地域との連携を密にし、学校を核とした地域づくりを推進していく。 ・必要な情報を、積極的に発信していく。メール配信を活用することで、より速く・確実に保護者のもとへ情報を届ける。 ・保護者アンケートや学校運営協議会を中心に更に意見を吸い上げ、学校運営に活かしていく。 ・公民館と連携し、地域学校協働活動を教育計画に組み込み、年間を通して計画的に実施していく。	学校運営協議会の仕組み・活動内容・構成メンバーなど、保護者・地域へ周知していく必要がある。	学校だよりやホームページを活用して、学校運営協議会の仕組みや活動内容を保護者・地域へ発信していく。また、「学校見学会」などを通して、地域の方にも学校の様子を知ってもらい、協力体制を築いていく。	
		6	学校は、定期的なアンケート等を通じて保護者や地域の意見を取り入れながら、コミュニティ・スクールとしての基盤を整備するとともに、義務教育学校の体制づくりを進めている。	Aのみ	70.8%	44.8%					・学校の決まり、約束事などを見直し、確認しながら、誰もが過ごしやすい環境になるように指導をおこなった。また、朝会時など児童生徒会が中心となってあいさつ運動を実施した。 ・昨年度の反省を生かし、全校遠足や大運動会・校内音楽会など感動と達成感のある学校行事をおこなった。また、たっ子遊びや縦割り清掃などを通じて6年生のリーダー性を高めている。 ・道徳の授業を中心に道徳教育の充実を努めるとともに、人権に視点をあてた授業を公開し(12月5日、6日)、自他を尊重する気持ちや思いやりの心を育てる教育を進めた。
社会性・人間性の育成	規律ある態度の育成 学校行事の充実 道徳教育の充実	7	学校は、あいさつ・言葉遣い・きまりを守る等、規律ある態度の育成に努めている。	A+B	95.8%	91.4%	X	・思いやりをもち、自他を尊重する児童生徒を育成していく。 ・生徒会主催の意図的・計画的な異年齢交友活動や体験活動を実施する。 ・地域と連携したあいさつ運動や児童生徒会が中心となった学校行事を充実させる。 ・自他ともに大切にすることを育てるために、9年間を見通した計画的な人権教育・道徳教育を推進する。 ・児童生徒がお互いの良さを認め合う「おやゆび活動(「いいね」を伝え合う)」など、自己効力感を高める取り組みを学校全体でおこなっていく。 ・制服自由化を更に意義あるものとするため、学びにふさわしい服装、場に応じた正装を自分たちで考え、身に付けさせる指導をおこなっていく。	地域学校協働本部事業の一環として、健全育成会でも、あいさつ運動の標語を児童生徒に作成してもらっている。教職員も、更に高い意識をもって指導にあたってもらいたい。	地域と学校が協力して、あいさつ運動の取組を強化していく。育成会のあいさつ運動に児童生徒・教職員も積極的に参加していく。	
		8	学校は、異年齢交流活動や感動と達成感のある学校行事、教育活動を展開している。	Aのみ	45.8%	38.8%					・教育相談を年2回に増やすなど日頃から児童生徒や保護者の声に真摯に耳を傾け、相談しやすい体制を整えた。 ・前期児童は横断歩道を渡る時はハンドサインを心掛け、安全に登下校している。 ・児童生徒が安全で過ごしやすい校舎内外の整備(月1回の全職員による安全点検の実施)を実施した。 ・地域の見守りボランティアの方々による登下校の見守り活動をおこなった。
		9	学校は、自他を大切にすることや相手を思いやる心を育て、道徳教育の充実を努めている。	Aのみ	70.8%	59.5%					
安心安全な教育環境	教育相談体制の充実 安心・安全な学級づくりの充実	10	学校は、児童生徒や保護者の声に丁寧に耳を傾け、相談しやすい環境づくりに努めている。	A+B	100.0%	92.3%	X	・安心安全な学校づくりを進める。 ・年2回の教育相談を核に、日頃から児童生徒・保護者の声に耳を傾け、一人一人に寄り添った教育相談体制を構築する。 ・全職員での安全点検を実施し、未然に事故を防止する。避難訓練を充実させる。ボランティアと協力し、登下校の見守りをおこなう。 ・プール北側の斜面やピクト周辺を整備を、保護者・地域の力を生かしながら進めていく。	安心な学校という点については、金銭の管理・会計処理についても、ミスのないように徹底した管理をおこなってほしい。	金銭管理・会計処理については、学年の会計担当、事務職員、管理職、PTA会長と複数での確認を、今後も継続していき、事故の無いように徹底した管理をおこなっていく。	
		11	学校は、校舎内外の施設設備などが、安全に使用できるように整備している。	Aのみ	75.0%	41.4%					
		11	学校は、校舎内外の施設設備などが、安全に使用できるように整備している。	A+B	100.0%	97.4%					
				Aのみ	45.8%	40.5%					